

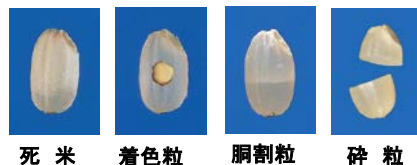
令和 3 年度予算概算決定の内容について

① AI画像解析等による次世代穀粒判別器の開発【新規】

- 食料・農業・農村基本計画では、農産物流通や消費者ニーズの変化を踏まえ、**農産物規格・検査**について、**規格項目の見直し、検査の高度化**を行うこととしている。現在の農産物検査は、精米原料となる玄米の被害の有無等を検査員の目視により確認されているが、①地域や検査員のバラツキが発生することや ②具体的な測定データを示せないこと等の課題がある。
- このような中、令和2年秋から一部検査項目への穀粒判別器の活用が開始されたことから、その画像データと測定数値、各用途での利用適性をビッグデータとしてデータベース化し、検査員による鑑定の相当部分を代替できる**次世代穀粒判別器を開発する**。
- これにより、**AI画像解析により規格項目を数値で精緻に示すことが可能**となり、着色粒・胴割粒の含有量等を考慮した、等級のみではない**実需者ニーズに応じた米取引**が可能となる。

生産現場の課題

- ・目視による検査では、地域や検査員によるバラツキがある。
- ・1等、2等という等級のみでは、コメの特徴を把握しきれないなあ。



死米 着色粒 胴割粒 碎粒

検査員の目視で
4等級に総合判定



生産現場の課題解決に資する研究内容

- 次世代穀粒判別器の開発メーカーと連携して、
- ①穀粒判別器から取得される米の画像・検査データの農業データ連携基盤(WAGRI)等への蓄積、
 - ②ビッグデータと連動する次世代穀粒判別器の開発、
 - ③AI画像診断によるデータに基づく取引を提案するプログラムの実装
- などを行う。



社会実装の進め方と期待される効果

- ・次世代穀粒判別器を用いた新たな検査項目体系を構築。
- ・玄米外観品質の等級に加え、新たな指標による用途別のコメ取引が実現。
- ・民間機関が実施する農産物検査への活用を積極的に進めるとともに先進農業法人や都道府県普及組織等と連携した普及活動を全国展開。

検査等級のみによらない、用途別のコメの取引が実現。海外日本食レストラン向け米輸出が1万トン増加。



<対策のポイント>

米の国際競争力の強化や高付加価値化を推進するため、米に関する民間主導の規格制定を支援します。
米の新たな規格制定や需要創造につながる企業・団体が連携した調査・広報を支援します。

<政策目標>

民間主導の新たな米の規格を制定（5規格程度〔令和7年度まで〕）

<事業の内容>

「規制改革実施計画」及び「食料・農業・農村基本計画」を踏まえ、米に関する民間主導の規格制定を支援するとともに、米の国際競争力の強化や高付加価値化を推進し、米の1人当たり消費量の減少傾向に歯止めをかける取組を支援します。

1. 米の民間規格の制定支援

米の国際競争力の強化を通じた輸出市場の開拓、高付加価値化を推進し、新たな米消費を創造するため、安全性、食味など消費者、ユーザーのニーズを取り込んだ規格の民間による設定を支援

2. 米の規格制定や需要創造に向けた企業・団体が連携した調査・広報支援

米の機能性など「米の健康」に着目した調査等、米の新たな規格制定や需要創造につながる企業・団体が連携した調査・広報を支援

<事業の流れ>



<事業イメージ>

米の民間規格の制定支援

米の国際競争力の強化や高付加価値化を推進するため、米に関する民間主導の規格制定を支援

検討会

調査

専門家の助言



米の規格制定や需要創造に向けた企業・団体が連携した調査・広報支援

米の新たな規格制定や需要創造につながる企業・団体が連携した調査・広報を支援

科学的知見

市場規模

シンポジウム

マスコミ活用

将来予測

強み・弱み

パンフレット

ウェブサイト



※シンポジウム等はオンライン開催を含む